



Robot for Everyone next generation work

VIDEO TRANSCRIPT

アクセントチュアでは、単なる業務の自動化にとどまらず、DXに発展させるためインテリジェントオートメーションを進めております。その中の一つの取り組み、Robot for Everyone についてご紹介します。

Robot for Everyone という取り組みは、アクセントチュアの全社員が RPA という武器を手にし、自分自身の業務に対する業務コンサルタントとして、自分の業務を BPR することを目的としています。

今、自分が取り組んでいる作業がなぜ必要なのか、またその作業はどうすれば効率化できるのか、ということを中心に考えることが重要です。BPR の結果として空いた時間をより付加価値の高い業務に充てるのが可能になります。

Robot for Everyone は、長時間労働の打開策の一つとして始まった取り組みです。組織風土改革“Project PRIDE”のフェーズ 1 の取り組みで、深夜残業や長時間残業は減らしましたが、その分、管理職負荷が一部高まってしまいました。

生産性を高め、より高い価値を提供すること、これはイノベーションなしには実現できません。テクノロジーイノベーションによる改革推進の核として RPA を活用した Robot for Everyone の取り組みが始まりました。

すべての社員がテクノロジーに強いわけではなく、また、業務のある中でロボットを作る時間が確保できない方も多いため、2つの参加形式を用意しています。非エンジニアの方や、業務に忙しい方でも、本取組に参加しやすいようにしています。RPA 活用のハードルを下げられるよう、豊富なコミュニティ活動を工夫して実施しています。

ユーザーはさまざまな状況、悩みに応じて、勉強会やトレーニングなど柔軟なサポートを得ることができます。RPA による業務効率化をきっかけとして DX 人材の育成ができると考えています。

Robot for Everyone に参加して工数を大幅に削減するだけでなく、全体の



業務そのものを見直すきっかけになりました。自動化することで人間にしかできない、より付加価値の高い業務ができるかもしれないといったような思考の変化が私にとってはありました。実際に自分やチームの業務について、人間とロボットどちらが対応すべきかというのを客観的に考えることで、コラボレーションを含めたより効率的な業務の実現に結びつけることができたなと感じています。

私たちは、単なる一業務の自動化の開発ではなくて、業務全体を考えた上で自ら自動化ツールの開発を行っています。つまり、自動化ツールが急に動かなくなったとしても、マニュアルワークに対応できるよう、自動化とマニュアルの二刀流で業務の冗長化を実現しています。また、業務とロボットのそれぞれについて熟知しているからこそ、業務要件に適したロボットを選んで開発することができます。この二刀流とロボットに関する知識によってチーム全体の業務効率化と生産性の向上を実現しています。

RPA やインテリジェントオートメーションの適用というところをきっかけとして、DX デジタルトランスフォーメーションへ昇華させる必要があります。昨今の日本においては、人材の不足というところが大きな課題の一つとなっています。ですので、RPA による定型業務の自動化・効率化というところにとどまらず、AI やデータ分析、ワークフローといった周辺のソリューションと組み合わせることで、今後生み出される業務および既存業務、あらゆる業務を全自動化す

るという発想で、企業のパフォーマンスを高める必要が出てきます。

いわゆる「テクノロジーの民主化」、これがひとつのキーワードだと感じています。アクセントゥアは今後も自らを変革し、その経験をお客様に還元していく、そういった形でお客様の業務を効率化していきたいと考えています。

Copyright © 2022 Accenture
All rights reserved.

Accenture and its logo are
trademarks of Accenture.